

独立行政法人さけ・ます資源管理センター基礎項目及びウエイト一覧表

基礎項目	項目名	項目種類	ウエイト
	第1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	大項目	
	1 組織体制の整備	中項目	- /100
	2 業務の運営管理	中項目	40/100
	3 業務の効率化	中項目	20/100
	4 他機関との連携	中項目	10/100
	5 施設、機械等の効率的活用	中項目	10/100
	6 運営体制の改善	中項目	20/100
	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	大項目	
	1 業務の重点化	中項目	- /100
	2 さけ類及びます類の資源管理に資する業務	中項目	
	(1) さけ類及びます類の資源を維持し、その持続的利用を図るためのふ化及び放流の確保	小項目	25/100
	(2) さけ類及びます類の資源管理に資するための調査及び研究の推進	小項目	35/100
	(3) さけ類及びます類のふ化及び放流技術の講習並びに指導の充実	小項目	10/100
	(4) 成果の公表、普及、利活用の促進及び情報の収集提供	小項目	10/100
	(5) 水産行政等に係る対応	小項目	10/100
	(6) アンケート調査の実施	小項目	5/100
	3 情報の公開	中項目	5/100
	第3 予算(人件費の見積りを含む。) 収支計画及び資金計画	大項目	
	1 経費(業務経費及び一般管理費) 節減に係る取り組み		40/100
	2 外部資金の獲得に係る取り組み		30/100
	3 法人運営における資金の配分状況		30/100
	第4 短期借入金の限度額	大項目	100/100
	第5 重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときは、その計画	大項目	
	第6 剰余金の使途	大項目	
	第7 その他農林水産省令で定める業務運営に関する事項	大項目	
	1 施設及び設備に関する計画	中項目	60/100
	2 職員の人事に関する計画(人員及び人件費の効率化に関する目標を含む。)	中項目	40/100

平成 13 年度 独立行政法人さけ・ます資源管理センター業務実績評価
基礎項目評価票

		独立行政法人さけ・ます資源管理センター
基礎項目名	第 1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 2 業務の運営管理	
基礎項目の ウェイト数 値	40 / 100	
自己評価 結果	ラ ン ク	(A) : 計画に対して順調に業務が進捗している B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している C : 計画に対して業務が遅れている
	(備 考) ・ 運営会議、部課長会議を開催し、センターの業務運営に係る重要事項、業務運営の基本的事項等について審議し、適正な業務運営に努めている。 ・ 業務に対するニーズの把握に関しては、道県の行政、試験研究機関、関係団体の関係者を参集して、「さけ・ます資源管理連絡会議」を開催し、出席者から高い評価を得ている。 ・ 内部評価のための業務管理・評価会議、外部の学識経験者等の意見を聴くための機関外部評価会議をそれぞれ開催し、出された意見については、平成14年度計画に反映させている。 ・ 職員の資質向上を目的として、各種研修会、研究集会へ職員を出席させている。また、技術の向上、知識の向上を図るべく研修会等を開催している。 (業務報告書：P1)	
上記自己評価 に対する 評価委員会 における検証 (委員会に おける基礎 項目評価結 果)	ラ ン ク	(A) : 計画に対して順調に業務が進捗している B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している C : 計画に対して業務が遅れている
	(所 見) ・ 従来どおりの「業務の運営管理」ともいえるが、サケ・マス資源管理の中核機関としての使命は十分に果たしている。また、「業務に対するニーズの把握」に努め、アンケート調査結果や各会議で出された意見等を積極的に受け止めて平成14年度計画に盛り込んでいる姿勢は評価されよう。	
評価委員会水産分科会(委員名)	山下委員、土井委員	

平成 13 年度 独立行政法人さけ・ます資源管理センター業務実績評価
基礎項目評価票

独立行政法人さけ・ます資源管理センター

基礎項目名	第 1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 3 業務の効率化	
基礎項目の ウェイト数 値	20 / 100	
自己評価 結果	ラ ン ク	(A) : 計画に対して順調に業務が進捗している B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している C : 計画に対して業務が遅れている
	(備 考) ・ 技術専門監・調査係長会議、庶務係長会議及び事業所長会議を開催し、本所、支所、事業所の連携と業務の効率化等に努めている。 また、効率的な予算運用に努めるとともに、業務の効率化のために必要なインフラ環境の整備を行っている。 <div style="text-align: right;">(業務報告書：P2)</div>	
上記自己評価 に対する 評価委員会 における検証 (委員会に おける基礎 項目評価結 果)	ラ ン ク	(A) : 計画に対して順調に業務が進捗している B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している C : 計画に対して業務が遅れている
	(所 見) ・ 「業務の効率化」のためのインフラ環境の前倒し整備は評価される。また、「効率的な予算運用」の面における通信費や光熱水料費の削減等に関しても意欲が感じられる。 ・ 今後の問題としては、回数も含めて効率的な会議運営のあり方、職場環境の活性化があげられよう。	
評価委員会水産分科会(委員名)	山下委員、土井委員	

平成 13 年度 独立行政法人さけ・ます資源管理センター業務実績評価
基礎項目評価票

		独立行政法人さけ・ます資源管理センター
基礎項目名	第 1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 4 他機関との連携	
基礎項目の ウェイト数 値	10 / 100	
自己評価 結果	ラ ン ク	(A) : 計画に対して順調に業務が進捗している B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している C : 計画に対して業務が遅れている
	(備 考) ・ 道県、民間増殖団体等に対して、さけ・ます類の資源管理に必要な情報の収集や標本の採集等に関して協力を依頼し、これまでと同様に協力を得ながら業務を進めている。 ・ 関係機関からの依頼に対して、業務に支障がない範囲で、資源管理に係る会議への出席、指導助言、デ - タ、サンプルの提供及び調査研究等へ積極的に協力を行っている。 (業務報告書 : P 2)	
上記自己評価 に対する 評価委員会 における検 証 (委員会に おける基礎 項目評価結 果)	ラ ン ク	(A) : 計画に対して順調に業務が進捗している B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している C : 計画に対して業務が遅れている
	(所 見) ・ 現段階では特に問題はないが、「民間移管」の件もあり、さらに他機関と積極的な交流が必要になってこよう。 ・ 業務報告書には「(他機関との対応は)業務に支障のない範囲で」といった言葉が散見されるが、この文言の必要性を含めて、他機関との連携方針をいま一度検討する必要がある。	
評価委員会水産分科会(委員名)	山下委員、土井委員	

平成 13 年度 独立行政法人さけ・ます資源管理センター業務実績評価
基礎項目評価票

独立行政法人さけ・ます資源管理センター

基礎項目名	第 1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 6 運営体制の改善	
基礎項目の ウエイト数 値	20 / 100	
自己評価 結果	ラ ン ク	(A) : 計画に対して順調に業務が進捗している B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している C : 計画に対して業務が遅れている
	(備 考) ・ 北海道に移管予定の 3 事業所について、計画どおり移管を完了している。また、資源造成のためのふ化放流数についても計画どおり民間に移行している。 <div style="text-align: right;">(業務報告書：P 4)</div>	
上記自己評価 に対する 評価委員会 における検 証 (委員会に おける基礎 項目評価結 果)	ラ ン ク	(A) : 計画に対して順調に業務が進捗している B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している C : 計画に対して業務が遅れている
	(所 見) ・ 順調な進捗状況にあると思われる。さらに積極的な技術指導、技術の移転を望みたい。	
評価委員会水産分科会(委員名)	山下委員、土井委員	

平成 13 年度 独立行政法人さけ・ます資源管理センター業務実績評価
基礎項目評価票

		独立行政法人さけ・ます資源管理センター
基礎項目名	第 2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 2 さけ類及びます類の資源管理に資する業務 (1) さけ類及びます類の資源を維持し、その持続的利用を図るためのふ化及び放流の確保	
基礎項目のウェイト数値	25 / 100 (95 / 100)	
自己評価結果	ラ ン ク	(A) : 計画に対して順調に業務が進捗している B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している C : 計画に対して業務が遅れている
	(備 考) ・ 系群の保全のためのふ化放流については、親魚の人為選択を排除し、集団の有効な大きさを十分確保するとともに、産卵期全般にわたって自河川由来の種苗を確保している。 ・ 増殖基盤維持のためのふ化放流については、サケ及びカラフトマスについては、計画どおり調査研究等のための放流を実施することができる見込みとなっている。サクラマス及びベニザケについては、親魚の遡上が不振であったため、種卵購入実績の達成率は低くなっているが、技術開発等を進めるためには大きな支障とはなっていない。 ・ 資源増大のためのふ化放流については、種卵購入実績の達成率は100%であり、計画どおりの放流が出来る見込みとなっている。 <div style="text-align: right;">(業務報告書：P5)</div>	
上記自己評価に対する評価委員会における検証 (委員会における基礎項目評価結果)	ラ ン ク	(A) : 計画に対して順調に業務が進捗している B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している C : 計画に対して業務が遅れている
	(所 見) ・ さけ・ます類の資源を維持し、持続的利用を図るためのふ化放流への全体的業務に関しては十分評価できるが、以下の事項に関しては改善が必要であると思われる。 ・ 系群保全のためのふ化放流は、北海道の河川のみで実施されており、本州の河川における系群保全は「温暖化対策」でも重要なので、積極的に行っていく必要がある。 ・ 増殖基盤維持のためのふ化放流のうち、サケとカラフトマスは問題ないが、サクラマスとベニザケは新たなふ化放流技術を開発する必要がある。サクラマスはスモルト放流後の河川及び沿岸における減耗要因の解明と対策、ベニザケは湖の有効利用によるスモルトの多量作成技術の開発等を検討する必要がある。	
評価委員会水産分科会(委員名)	上田委員、馬淵委員	

平成 13 年度 独立行政法人さけ・ます資源管理センター業務実績評価
基礎項目評価票

		独立行政法人さけ・ます資源管理センター
基礎項目名	第 2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 2 さけ類及びます類の資源管理に資する業務 (2) さけ類及びます類の資源管理に資するための調査及び研究の推進	
基礎項目のウエイト数値	35 / 100 (95 / 100)	
自己評価結果	ラ ン ク	<p>Ⓐ : 計画に対して順調に業務が進捗している</p> <p>Ⓑ : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している</p> <p>Ⓒ : 計画に対して業務が遅れている</p>
	<p>(備 考)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 耳石温度標識については、国際的に標識放流結果を基準データとして報告することが求められており、これら国際的な対応も実施している。また、系群毎の分布、移動、成長の把握などでの活用が大いに期待されている。 ・ 調査研究のうち、特に、遺伝的系群識別の成果は、国際機関である N P A F C が進める海洋生活期さけ・ます類の系群識別の進展にも大いに寄与している。 ・ 技術開発のうち、増殖効率化モデル事業については、コスト低減のための技術開発として、関係者から注目されており、報告の内容は業界紙にも取り上げられている。 (業務報告書：P 10) 	
上記自己評価に対する評価委員会における検証 (委員会における基礎項目評価結果)	ラ ン ク	<p>Ⓐ : 計画に対して順調に業務が進捗している</p> <p>Ⓑ : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している</p> <p>Ⓒ : 計画に対して業務が遅れている</p>
	<p>(所 見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さけ・ます類の資源管理のための調査・研究に関しては広範囲な課題に対して積極的に取り組んでおり高く評価できるが、以下の事項に関しては改善の必要があると思われる。 ・ 耳石温度標識を解析するために要する労力及びコストを考慮し、今後の標識魚確認調査により期待される成果をあげるために必要な標本数を検討する必要がある。また、国際条約対応として野生魚とふ化場魚の識別に耳石温度標識は有効であるが、今後予想されるふ化場魚の外見的識別に関して対策を検討しておく必要がある。 ・ 東北・北陸地方でもさけ・ます類のふ化放流が行われており、漁業者にとっては大変重要な資源となっているので、東北・北陸地方でも十分な調査・研究が行えるような体制づくりを検討する必要がある。 ・ 調査研究に関しては、広範囲な調査研究課題から関連する課題を統合して効率的に推進するとともに、関係する試験研究機関との共同研究を積極的に遂行する必要がある。 ・ 技術開発に関しては、高品質・高需要のサケ資源の系群を解明し、その資源を増産する技術開発を行う必要がある。 	
評価委員会水産分科会(委員名)	上田委員、馬淵委員	

平成 13 年度 独立行政法人さけ・ます資源管理センター業務実績評価
基礎項目評価票

		独立行政法人さけ・ます資源管理センター
基礎項目名	第 2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 2 さけ類及びます類の資源管理に資する業務 (3) さけ類及びます類のふ化及び放流技術の講習並びに指導の充実	
基礎項目のウエイト数値	10 / 100 (95 / 100)	
自己評価結果	ラ ン ク	<p>Ⓐ : 計画に対して順調に業務が進捗している Ⓑ : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している Ⓒ : 計画に対して業務が遅れている</p>
	<p>(備 考)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 技術指導については、北海道においては延べ866回、本州では延べ115回行うなど、計画どおり実施している。 ・ 研修会についても、北海道においては延べ12回、本州では延べ2回行うなど、計画どおり実施している。 <p style="text-align: right;">(業務報告書：P64)</p>	
上記自己評価に対する評価委員会における検証 (委員会における基礎項目評価結果)	ラ ン ク	<p>Ⓐ : 計画に対して順調に業務が進捗している Ⓑ : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している Ⓒ : 計画に対して業務が遅れている</p>
	<p>(所 見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さけ・ます類のふ化放流技術の講習及び指導に関しては、精力的に広い地域にわたってきめ細かく実施されており高く評価される。 ・ 今後北海道及び民間増殖団体に移管される資源増大のためのふ化放流事業に関しては、各地域による異なる要望・要請に適切に対応できるように、特段の配慮を要する必要がある。 	
評価委員会水産分科会(委員名)	上田委員、馬淵委員	

平成 13 年度 独立行政法人さけ・ます資源管理センター業務実績評価
基礎項目評価票

		独立行政法人さけ・ます資源管理センター
基礎項目名	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 2 さけ類及びます類の資源管理に資する業務 (4) 成果の公表、普及、利活用の促進及び情報の収集提供	
基礎項目のウエイト数値	10 / 100 (95 / 100)	
自己評価結果	ラ ン ク	<p>Ⓐ : 計画に対して順調に業務が進捗している</p> <p>B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している</p> <p>C : 計画に対して業務が遅れている</p>
	<p>(備 考)</p> <ul style="list-style-type: none"> パンフレットを含む6種類の刊行物を計画どおりに発行、配布している。また、ホームページやマスコミ及び一般からの照会に対して適切に情報を提供している。 成果の発表は口頭によるものが78件、印刷物によるものが41件であり、また、公開は、学術関係のみならず道県行政機関、試験研究機関、増殖団体、漁業者団体など網羅している。 <p>(業務報告書：P66)</p>	
上記自己評価に対する評価委員会における検証 (委員会における基礎項目評価結果)	ラ ン ク	<p>Ⓐ : 計画に対して順調に業務が進捗している</p> <p>B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している</p> <p>C : 計画に対して業務が遅れている</p>
	<p>(所 見)</p> <ul style="list-style-type: none"> 道県行政機関、試験研究機関、教育機関、増殖団体、漁業者団体、関係市町村に対しては、十分に成果の公表及び普及を行なっていることは評価できるが、以下の事項に関しては改善する必要があると思われる。 一般国民がさけ・ます資源管理センターの業務を知る機会を増やしていく必要があり、千歳支所の「さけの里ふれあい広場」の一般公開も継続するとともに、展示内容を更新する必要がある。 行政や漁業者に対する研修会等では、「専門用語を少なくしてわかりやすい説明」、「役立つ内容」で行うように努力する必要がある。 	
評価委員会水産分科会(委員名)	上田委員、馬淵委員	

平成 13 年度 独立行政法人さけ・ます資源管理センター業務実績評価
基礎項目評価票

		独立行政法人さけ・ます資源管理センター
基礎項目名	第 2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 2 さけ類及びます類の資源管理に資する業務 (5) 水産行政等に係る対応	
基礎項目のウエイト数値	10 / 100 (95 / 100)	
自己評価結果	ラ ン ク	(A) : 計画に対して順調に業務が進捗している B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している C : 計画に対して業務が遅れている
	(備 考) ・ 水産庁からの委託事業である「太平洋さけ資源回復緊急対策調査」については、委託目的に沿って、計画どおり業務が実施されている。 ・ その他、独立行政法人水産総合研究センター、民間増殖団体等からの委託事業を実施している。 (業務報告書：P67)	
上記自己評価に対する評価委員会における検証 (委員会における基礎項目評価結果)	ラ ン ク	(A) : 計画に対して順調に業務が進捗している B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している C : 計画に対して業務が遅れている
	(所 見) ・ 水産庁、独立行政法人水産総合研究センター及び民間増殖団体等からの委託事業に関しては、委託目的に沿って的確に対応していると評価できるが、以下の事項に関しては検討する必要がある。 ・ さけ・ます類の資源管理に必要な業務、特に北海道で問題になっている外来魚に関して、その生態や繁殖抑制に向けて行っている技術開発の成果を、関係機関に働きかけ、委託事業として受けることを検討することも必要である。	
評価委員会水産分科会(委員名)	上田委員、馬淵委員	

平成 13 年度 独立行政法人さけ・ます資源管理センター業務実績評価
基礎項目評価票

		独立行政法人さけ・ます資源管理センター
基礎項目名	第 2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 2 さけ類及びます類の資源管理に資する業務 (6) アンケート調査の実施	
基礎項目のウエイト数値	5 / 100 (95 / 100)	
自己評価結果	ラ ン ク	<p>Ⓐ : 計画に対して順調に業務が進捗している Ⓑ : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している Ⓒ : 計画に対して業務が遅れている</p>
	<p>(備 考)</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート調査を行い、回答を分析し、その結果を業務に反映させるとともに、ホームページで調査結果等を公表している。 <p style="text-align: right;">(業務報告書 : P 76)</p>	
上記自己評価に対する評価委員会における検証 (委員会における基礎項目評価結果)	ラ ン ク	<p>Ⓐ : 計画に対して順調に業務が進捗している Ⓑ : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している Ⓒ : 計画に対して業務が遅れている</p>
	<p>(所 見)</p> <ul style="list-style-type: none"> 道県行政機関、試験研究機関及び民間増殖団体を対象にしたセンター業務に対する要望・意見を把握するためのアンケート調査を行い、出された問題点・意見・要望に対してセンター内で論議され、改善のための検討方向が整理されて、結果もホームページで公表されていることは評価できる。 一般国民がセンター業務及びさけ・ます類全般に対しての動向・要望・意見を把握するためのアンケート調査も実施することを検討することも必要である。 	
評価委員会水産分科会(委員名)	上田委員、馬淵委員	

平成 13 年度 独立行政法人さけ・ます資源管理センター業務実績評価
基礎項目評価票

		独立行政法人さけ・ます資源管理センター
基礎項目名	第 2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 3 情報の公開	
基礎項目のウエイト数値	5 / 100	
自己評価結果	ラ ン ク	(A) : 計画に対して順調に業務が進捗している B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している C : 計画に対して業務が遅れている
	(備 考) ・ 特に、ホームページにおいて、その即時性を生かし、情報公開を行っている。また、ホームページへのアクセス数も多い。 <div style="text-align: right;">(業務報告書：P76)</div>	
上記自己評価に対する評価委員会における検証 (委員会における基礎項目評価結果)	ラ ン ク	(A) : 計画に対して順調に業務が進捗している B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している C : 計画に対して業務が遅れている
	(所 見) ・ ホームページを開設して日数が経過していないのに、アクセス件数が多く、積極的に情報公開を行っており、内容に関しても高く評価される。 ・ 今後は、子供を対象とした易しくて分かりやすいさけ・ます類に関するコーナー及び一般消費者(国民)を対象とした消費・流通関係の内容を紹介するコーナー等を新設することを検討することも必要である。	
評価委員会水産分科会(委員名)	上田委員、馬淵委員	

平成 13 年度 独立行政法人さけ・ます資源管理センター業務実績評価
基礎項目評価票

		独立行政法人さけ・ます資源管理センター
基礎項目名	第 3 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画 2 外部資金の獲得に係る取り組み	
基礎項目の ウェイト数 値	30 / 100	
自己評価 結果	ラ ン ク	(A) : 取り組みは十分であった B : 取り組みは概ね十分であった C : 取り組みは不十分であった
	(備 考) ・ 農林水産省技術会議、水産庁及び独立行政法人水産総合研究センターからの調査業務を始めとし、道県、関連民間団体等からの技術指導、講習等の業務を積極的に受け入れている。 ・ 事業所の廃止に伴う不用物品の売り払いにより、収入を獲得している。 (業務報告書：P78)	
上記自己評 価に対する 評価委員会 における検 証 (委員会に おける基礎 項目評価結 果)	ラ ン ク	(A) : 取り組みは十分であった B : 取り組みは概ね十分であった C : 取り組みは不十分であった
	(所 見) ・ 業務の性質上困難と思われる外部資金の獲得について、受託収入が22.7百万円であることは評価される。ただ、上記の不用物品の売払い収入は外部資金の獲得とは異なるのではないかと。 ・ 今後、組織全体として、競争的資金獲得に向けた方策を検討すべきである。	
評価委員会水産分科会（委員名）	会田委員、西村委員、安成委員	

平成 13 年度 独立行政法人さけ・ます資源管理センター業務実績評価
基礎項目評価票

		独立行政法人さけ・ます資源管理センター
基礎項目名	第 7 その他農林水産省令で定める業務運営に関する事項 1 施設及び設備に関する計画	
基礎項目の ウエイト数 値	60 / 100	
自己評価 結果	ラ ン ク	(A) : 改善の成果は十分であった B : 改善の成果は概ね十分であった C : 改善の成果は不十分であった
	(備 考) ・ ふ化及び飼育施設、取水設備等に加え、調査室の新設等などの施設整備を行っている。当該施設整備により、ふ化水の配水の改善や防疫体制の強化が図られている。また、耳石温度標識魚の大量生産が可能となっている。 ・ 高額機械設備については、業務上の効率化、必要性及び老朽化等を勘案して、計画的に行われている。 ・ さらに、業務上の必要性老朽化の状況等を勘案し、事業用車輛、構内除雪機、動力揚水装置等の更新を行っている。 (業務報告書：P80)	
上記自己評 価に対する 評価委員会 における検 証 (委員会に おける基礎 項目評価結 果)	ラ ン ク	(A) : 改善の成果は十分であった B : 改善の成果は概ね十分であった C : 改善の成果は不十分であった
	(所 見) ・ 自己評価のとおり、計画どおり進捗している。 ・ デフレ下の設備投資であるため、設備投資による成果の回収が短期間で図れるよう、また、できるだけ額の少ない投資になるようしなければならないと思うが、その他の具体的な取組を数値で示して評価したい。	
評価委員会水産分科会(委員名)	会田委員、西村委員、安成委員	

平成 13 年度 独立行政法人さけ・ます資源管理センター業務実績評価
基礎項目評価票

		独立行政法人さけ・ます資源管理センター
基礎項目名	第 7 その他農林水産省令で定める業務運営に関する事項 2 職員の人事に関する計画（人員及び人件費の効率化に関する目標を含む。）	
基礎項目の ウエイト数 値	40 / 100	
自己評価 結果	ラ ン ク	(A) : 計画に対して順調に業務が進捗している B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している C : 計画に対して業務が遅れている
	(備 考) ・ 人員に係る指標に基づき、一般職員 1 名の定員削減及び人件費総額の抑制を行っている。 ・ 一般職員 4 名の人事交流を行い、組織の活性化と職員の人材育成を図っている。 (業務報告書：P 8 2)	
上記自己評 価に対する 評価委員会 における検 証 (委員会に おける基礎 項目評価結 果)	ラ ン ク	(A) : 計画に対して順調に業務が進捗している B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している C : 計画に対して業務が遅れている
	(所 見) ・ 計画どおりに進んでいる。 職員の一層の資質の向上、職場の活性化に留意してもらいたい。	
評価委員会水産分科会（委員名）	山下委員、土井委員	

平成 13 年度 独立行政法人さけ・ます資源管理センター業務実績評価
中項目評価票

		独立行政法人さけ・ます資源管理センター	
評価対象 項目名	第 2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためのとるべき措置 2 さけ類及びます類の資源管理に資する業務		
基礎項目の評 価結果及びウ ェイト	基礎項目名	ラ ン ク	ウ ェ イ ト
	(1) さけ類及びます類の資源を維持し、その持続的利用を図るためのふ化及び放流の確保	A	2 5
	(2) さけ類及びます類の資源管理に資するための調査及び研究の推進	A	3 5
	(3) さけ類及びます類のふ化及び放流技術の講習並びに指導の充実	A	1 0
	(4) 成果の公表、普及、利活用の促進及び情報の収集提供	A	1 0
	(5) 水産行政等に係る対応	A	1 0
	(6) アンケート調査の実施	A	5
評価委員会に おける評価	ラ ン ク	(A) : Aの数の割合が80%以上(業務が順調に進捗) B : Aの数の割合が60%以上80%未満(業務が概ね順調に進捗) C : Aの数の割合が60%未満(業務が遅延)	
	(計算式)	$95(Aの数) / 95(ウェイトの合計) = 100.0\%$	
	(所 見)	<ul style="list-style-type: none"> さけ・ます類の資源管理に資する業務については、様々な課題の解決に向けて調査研究を行うとともに、その成果をもとにふ化放流技術の講習・指導に積極的に取り組んでおり高く評価できるが、改善が指摘された事項に関しては、積極的に対策を講じる必要があると思われる。 	
評価委員会水産分科会(委員名)	上田委員、馬淵委員		

平成 13 年度 独立行政法人さけ・ます資源管理センター業務実績評価
大項目評価票

独立行政法人さけ・ます資源管理センター

評価対象 項目名	第 1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置		
基礎項目の評価 結果及びウ ェイト	基礎項目名	ラ ン ク	ウ エ イ ト
	2 業務の運営管理	A	40
	3 業務の効率化	A	20
	4 他機関との連携	A	10
	5 施設、機械等の効率的活用	A	10
	6 運営体制の改善	A	20
評価委員会に おける評価	ラ ン ク	(A) : Aの数の割合が80%以上(業務が順調に進捗) B : Aの数の割合が60%以上80%未満(業務が概ね順調に進捗) C : Aの数の割合が60%未満(業務が遅延)	
	(計算式)	$100(Aの数) / 100(ウエイトの合計) = 100.0\%$	
	(所見)	<ul style="list-style-type: none"> ・ さけ・ます資源管理の中核機関としての使命は十分に果たしている。 ・ 効率的な予算運用の面では、通信費や光熱水料費の削減等に意欲が感じられる。 ・ 今後は施設・機械等の効率的活用、会議運営の効率化及び他機関とのより積極的な交流について検討する必要がある。 	
評価委員会水産分科会(委員名)	山下委員、土井委員		

平成 13 年度 独立行政法人さけ・ます資源管理センター業務実績評価
大項目評価票

独立行政法人さけ・ます資源管理センター			
評価対象 項目名	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成する ためとるべき措置		
基礎項目の評 価結果及びウ ェイト	基礎項目名	ラ ン ク	ウ エ イ ト
	2 さけ類及びます類の資源管理に資する業務	A	95
	3 情報の公開	A	5
評価委員会に おける評価	ラ ン ク	(A) : Aの数の割合が80%以上(業務が順調に進捗) B : Aの数の割合が60%以上80%未満(業務が概ね順調に進捗) C : Aの数の割合が60%未満(業務が遅延)	
	(計算式)	$100(Aの数) / 100(ウエイトの合計) = 100.0\%$	
	(所見)	<ul style="list-style-type: none"> さけ・ます類の資源管理に資する業務は、大旨順調に進捗していると評価されるが、改善が指摘された事項に関して、積極的に対策を講じる必要があると思われる。 行政、試験研究機関、民間増殖団体及び漁業者等に対しては、十分に成果の公表や普及を行っていることは高く評価できる。また、今後とも一般消費者(国民)に向けた積極的なPR活動を期待する。 	
評価委員会水産分科会(委員名)	上田委員、馬淵委員		

平成 13 年度 独立行政法人さけ・ます資源管理センター業務実績評価
大項目評価票

独立行政法人さけ・ます資源管理センター

評価対象 項目名	第 3 予算（人件費の見積りを含む。）収支計画及び資金計画		
基礎項目の評 価結果及びウ ェイト	基礎項目名	ラ ン ク	ウ エ イ ト
	1 経費（業務経費及び一般管理費）節減に係る取り組み	A	40
	2 外部資金の獲得に係る取り組み	A	30
	3 法人運営における資金配分状況	A	30
評価委員会に おける評価	ラ ン ク	(A) : Aの数の割合が80%以上（業務が順調に進捗） B : Aの数の割合が60%以上80%未満（業務が概ね順調に進捗） C : Aの数の割合が60%未満（業務が遅延）	
		（計算式） $100(Aの数) / 100(ウエイトの合計) = 100.0\%$	
		（所見）	
評価委員会水産分科会（委員名）	会田委員、西村委員、安成委員		

平成 13 年度 独立行政法人さけ・ます資源管理センター業務実績評価
大項目評価票

独立行政法人さけ・ます資源管理センター			
評価対象 項目名	第 4 短期借入金の限度額		
基礎項目の評 価結果及びウ ェイト	基礎項目名	ラ ン ク	ウ エ イ ト
	第 4 短期借入金の限度額	A	100
評価委員会に おける評価	ラ ン ク	(A) : Aの数の割合が80%以上(業務が順調に進捗) (B) : Aの数の割合が60%以上80%未満(業務が概ね順調に進捗) (C) : Aの数の割合が60%未満(業務が遅延)	
		(計算式)	
		(所見)	
評価委員会水産分科会(委員名)	会田委員、西村委員、安成委員		

平成 13 年度 独立行政法人さけ・ます資源管理センター業務実績評価
大項目評価票

独立行政法人さけ・ます資源管理センター

評価対象 項目名	第 7 その他農林水産省令で定める業務運営に関する事項		
基礎項目の評 価結果及びウ ェイト	基礎項目名	ラ ン ク	ウ エ イ ト
	1 施設及び設備に関する計画	A	60
	2 職員の人事に関する計画（人員及び人件費の効率化に 関する目標を含む。）	A	40
評価委員会に おける評価	ラ ン ク	(A) : Aの数の割合が80%以上（業務が順調に進捗） B : Aの数の割合が60%以上80%未満（業務が概ね順調に進捗） C : Aの数の割合が60%未満（業務が遅延）	
	（計算式）	$100(Aの数) / 100(ウエイトの合計) = 100.0\%$	
	（所見） （第7の2）	・ 計画どおりに進んでいる。職員の一層の資質の向上、職場の活性化に留意してもらいたい。	
評価委員会水産分科会（委員名）	会田委員、西村委員、安成委員、山下委員、土井委員		

平成13年度 独立行政法人さけ・ます資源管理センター業務実績評価
総合評価票

		独立行政法人さけ・ます資源管理センター	
大項目の評価	項 目 名		ラ ン ク
	第1	業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	A
	第2	国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	A
	第3	予算（人件費の見積りを含む。）収支計画及び資金計画	A
	第4	短期借入金の限度額	A
	第5	重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときは、その計画	-
	第6	剰余金の使途	-
	第7	その他農林水産省令で定める業務運営に関する事項	A
その他の検討事項	項 目 名		所 見
	中期計画の「第2 - 1 業務の重点化」に記載している事項の対応状況		第2の基礎項目、中項目及び大項目が「A」と評価されており、計画どおり業務の重点化が進捗していると認められる。
	中期計画の「第2 - 2 - (2) のイ調査研究とウ技術開発」におけるS評価の有無・内容		基礎項目において、「S」と評価された項目はない。
	財務諸表の内容		特に問題とすべき点はない。
	業務運営の効率化への取組状況		効率化への取組状況は良好である。
	中期計画に記載されている事項以外の特筆すべき業績		該当する項目はない。
	さけ・ます類の放流から回帰までのタイムラグ、回帰量の多寡による種卵確保への影響等の特殊性		総合評価に当たって、特に当該事項について考慮すべき項目はない。
その他		特になし。	
ラ ン ク	(A) : 計画に対して順調に業務が進捗している (B) : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している (C) : 計画に対して業務が遅れている		
	(所 見) ・「大項目の評価結果」がすべて「A」と評価されており、計画に対して業務が順調に進捗していると認められること、また、「その他の検討事項」において、特に問題とすべき事由がないことから、総合評価を「A」とすることが妥当である。 第1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 ・ さけ・ます資源管理の中核機関としての使命は十分に果たしている。また、効率		

的な予算運用の面にも意欲が感じられる。今後は施設機械等の効率的活用、会議運営の効率化及び他機関との交流について検討する必要がある。

第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

- ・ さけ・ます類の資源管理に資する業務は、大旨順調に進捗していると評価される。なお、指摘事項に対しては、積極的な対策を望みたい。
- ・ 関係機関に対して十分な技術の講習、指導並びに成果の公表等を行っており、高く評価される。今後とも積極的なPR活動を期待する。

第3 予算（人件費の見積りを含む。）収支計画及び資金計画

- ・ 経費節減の取り組みがみられる。
- ・ 外部資金の獲得については評価される。今後も外部資金の獲得に向けた努力が期待される。
- ・ 運営費交付金については、概ね効率的に使用されている。

第4 短期借入金の限度額

- ・ 短期借入金の借入は行われていない。

第7 その他農林水産省令で定める業務運営に関する事項

- ・ 施設及び設備については、計画どおり進捗している。
- ・ 職員の人事に関しては、計画どおり進んでいる。職員の一層の資質の向上、職場の活性化に留意してもらいたい。

評価委員会水産分科会（委員名）

小野分科会長